

平成19年度一般会計決算状況をお知らせします

みなさんが納められた税金等が、どのように使われたのかご覧ください

決算の概要

下野市の平成19年度(19年4月~20年3月)の決算がまとまり、9月に開会された市議会定例会で承認されましたので、お知らせいたします。

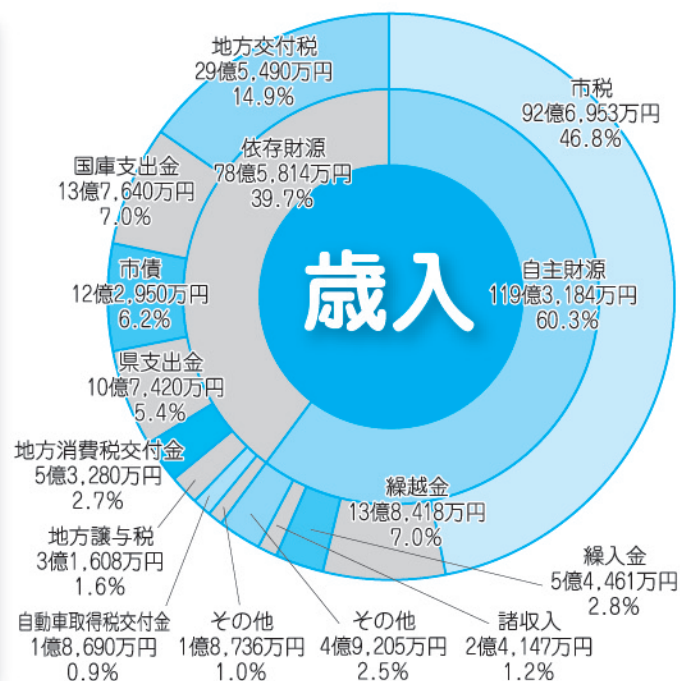
●決算規模

平成19年度の一般会計については、歳入総額が197億8,998万円、歳出総額が187億4,164万円、前年度と比べて、歳入が2億7,913万円、1.4%減少し、歳出は5,671万円、0.3%の増加となりました。

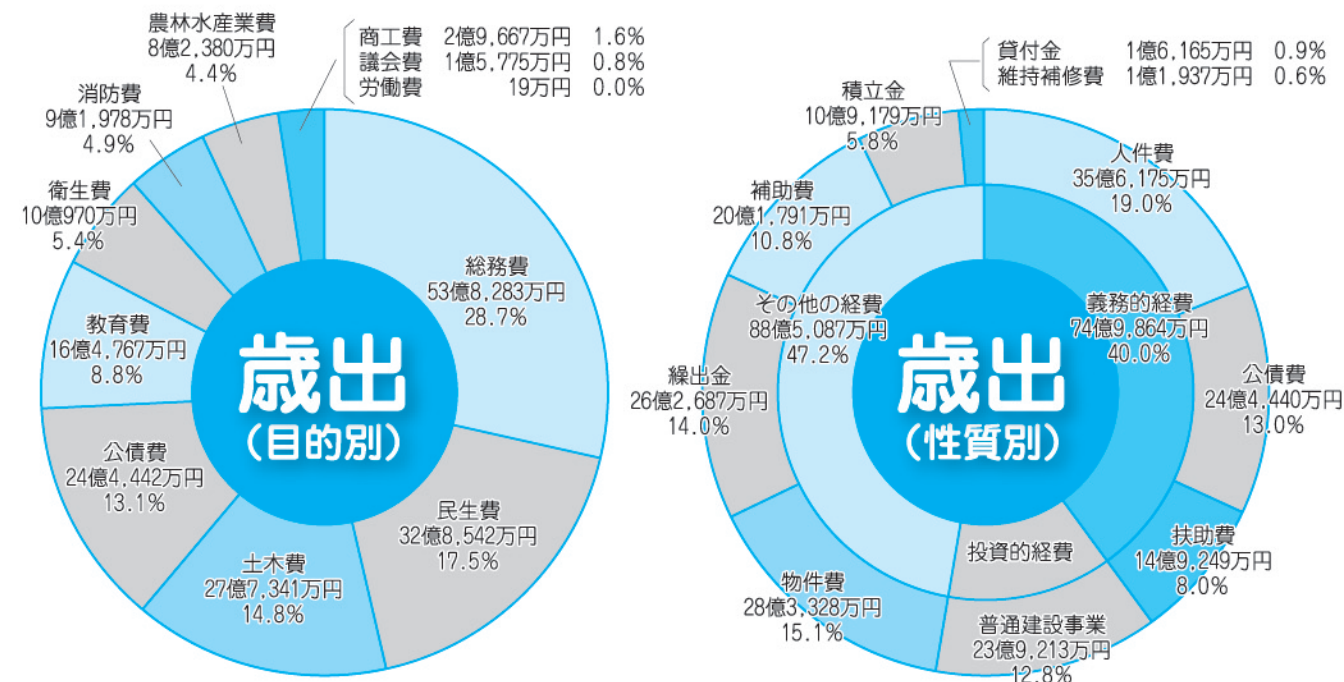
●決算収支

平成19年度の形式収支(歳入歳出差引額)は、10億4,834万円でした。
 社会福祉法人施設整備事業、畜産担い手育成総合整備事業、市道整備事業において、1億223万円を翌年度に繰り越すべき財源としたため、繰越分を差引くと9億4,611万円の黒字収支となりました。

歳入 197億8,998万円



歳出 187億4,164万円



●歳入

歳入決算額は、197億8,998万円で、前年度200億6,911万円と比べて2億7,913万円(1.4%)減少しました。

■市税収入の増加

個人市税及び固定資産税の増加により、前年度に比べて6億7,572万円、7.9%の増加となりました。

■地方交付税の増加

特別交付税において合併市町村包括措置分による減額があった一方、普通交付税の増額により前年度に比べて1億5,190万円、5.4%の増加となりました。

■地方譲与税の減少

「三位一体改革」の税源移譲に伴い廃止となった所得譲与税の減額により、前年度に比べて3億7,331万円、54.2%の減少となりました。

■市債の減少

合併市町村振興基金の減額により、前年度に比べて13億3,020万円、52.0%の減少となりました。

■分担金・負担金の減少

石橋駅バリアフリー整備事業負担金増加の一方、保育料の料金改定による減額により、前年度に比べて347万円、1.6%の減少となりました。

■繰入金の減少

特別会計繰入金及び基金繰入金の減額により、前年度に比べて3億9,157万円、41.8%の減少となりました。

●歳出

歳出決算額は、187億4,164万円で前年度186億8,493万円と比較して5,671万円(0.3%)の減少となりました。

■義務的経費の増加

人件費の、期末・勤勉手当の支給率の改定、退職手当及び市町村職員共済組合負担金等の増額や扶助費の児童手当等の増額により前年度に比べ2億3,800万円、3.3%の増加となりました。

■投資的経費の増加

社会資本整備事業費として、石橋小学校大規模改修事業、合併市町村補助金対象市道整備、石橋駅バリアフリー整備等を行い、前年度に比べて2億9,979万円、14.3%の増加となりました。

■積立金の減少

地域振興基金への積立減額により、前年度に比べて7億3,716万円、40.3%の減少となりました。

■繰出金の増加

土地区画整理事業特別会計の前年度繰越金増による繰出金減額があった一方、公共下水道事業特別会計へ公的資金補償金免除繰上償還充当分の増額により、前年度に比べて2,622万円、1.0%の増加となりました。

●市民1人当たりにおける使われ方(平成20年3月31日現在 住民基本台帳人口 59,580人)

決算総額 314,563円 	議会費 2,648円 議会運営に使われるお金 	総務費 90,346円 市の統括的なこと 税務・戸籍事務 自治振興事業に使われるお金 	民生費 55,143円 高齢者など福祉行政、 保育所の運営、医 療費助成などに使 われるお金
衛生費 16,947円 健康診断、予防接種、ごみの 収集・処理に使 われるお金 	労働費 3円 失業対策、労働 行政全般に使 われるお金 	農林水産業費 13,827円 農道整備、農林 業の振興に使 われるお金 	商工費 4,979円 商工業の育成、 観光事業の推進 に使われるお金
土木費 46,549円 市道整備、区画整理、 公園、下水道整備等 に使われるお金 	消防費 15,438円 消防活動、消防車 等の整備に使 われるお金 	教育費 27,655円 小中学校の運営や 公民館、図書館、 文化財の保護等に 使われるお金 	公債費 41,028円 銀行などからの借入 金に対する返済に使 われるお金

注) 事務の合理化、効率化を図るため人件費は総務費に一括して予算を計上しています。